

一般質問通告表

令和元年第3回始良市議会定例会（9月4日）

氏名	質問事項	質問の要旨	質問の相手
4. 鈴木 俊二	1. 生活排水処理行政の課題について	<p>始良市内では、環境保全のため、生活排水対策として合併処理浄化槽への転換補助・コミュニティプラント事業・農業集落排水事業などを行っているが、汚水処理人口普及率は、平成29年度の鹿児島県のデータによると79.1パーセントと県内13位であり、生活排水が処理されない単独処理浄化槽が5,789基ある。これを合併処理浄化槽へ整備する方向性であると考えているが、以下の各課題について問う。</p> <p>(1) 汲み取り式便槽や単独処理浄化槽から合併浄化槽への更新について進捗状況及び今後の課題について考えを問う。</p> <p>(2) 各コミュニティプラントと農業集落排水事業の2つの事業と、浄化槽推進補助金政策が市内に混在する形になっているが、それぞれ各家庭へ支払われる事業費及び各家庭が支払う使用量等負担について問う。</p> <p>(3) 要旨1、要旨2での課題を克服するためにも、浄化槽市町村整備推進事業を導入する考えはないか問う。</p>	市長
5. 本村 良治	1. 働き方改革の更なる推進を	<p>教職員は日常の教育活動の中でいろいろなストレスを感じている。その実態を調査し、個々の事例を把握する必要があると考える。そこで県教委から提案されているストレスチェック調査を実施することによって教職員の精神的な課題を把握できると認識する。</p> <p>(1) ストレスチェックについてどのように認識しているか。</p>	教育長

氏 名	質 問 事 項	質 問 の 要 旨	質問の相手
	<p>2. 幼児教育・保育の無償化について</p>	<p>(2) ストレスチェックの実施主体はどこだと捉えているか。</p> <p>(3) 始良市内におけるストレスチェックの実施状況はどうなっているか。</p> <p>(4) 実施後、具体的にどのような改善がなされたか。</p> <p>(5) このストレスチェックの結果について、今後、産業医はどのように関わっていくか。</p> <p>今回の選挙結果により消費税の値上げは避けて通れない情勢になってきた。この値上げで、政府は幼児教育・保育の無償化を打ち出してきている。本当に無償化を必要としているのは非課税世帯より経済的に厳しい世帯が最も援助を必要としている。今回の幼児教育・保育の無償化は本当に援助を必要とする世帯へ国の施策が届いているのか疑問に思う。</p> <p>(1) 保育の需要、増加に対応するには保育士の確保が課題となってくるがどのような対策を考えているか。</p> <p>(2) 現在、認可外保育所への始良市独自の補助を用途も含めて説明を求める。</p> <p>(3) 今回の無償化により認可保育所と認可外所保育所では保護者負担にますます格差が生じることについてどう考えるか。認可外保育所と認可保育所の保護者負担の差額はどの程度になるか。</p> <p>(4) この格差解消についての具体策を説明せよ。</p> <p>(5) 無償化により保護者の負担増になった費目はなかったか具体的な説明を求める。</p>	<p>市 長 教育長</p>

氏 名	質 問 事 項	質 問 の 要 旨	質問の相手
		(6) 今回の無償化により保護者のどのような声を把握しているか。具体例を示せ。	
6. 国生 卓	<p>1. 伊集院蒲生溝辺線について</p> <p>2. 総務部所管公用マイクロバス使用許可取り扱い要領について</p>	<p>主要地方道、伊集院蒲生溝辺線とは、伊集院町麦生田の国道3号交差点から郡山～吉田～始良を経て溝辺町の国道504号を結ぶ幹線道路である。</p> <p>蒲生工区、1,500メートルの内、前ノ郷川岸边～旭橋～林業試験場前まで約620メートルを本年度中に整備されるが、次を問う。</p> <p>(1) 平成20年6月24日の蒲生町と県との「旧道引継ぎに関する協定書」の中、県は、新道の工事完了までに条件整備等をしてから県道463号及び40号区間の一部を蒲生町が引き継ぐとなっているが、今日までに県へどのような整備の要望をしたか内容を問う。</p> <p>(2) 蒲生工区が完了すると交通量（特に、大型車両）が多くなると予想される。よって、安全性が重視されるこの道路については、市民の安全のために万全を期すべきである。この路線の安全性の確保について市としてどのような考えか。</p> <p>始良市公用車管理規則の中、集中管理している公用車のマイクロバス使用について、以下のとおり問う。</p> <p>(1) 始良市マイクロバス使用規程第2条、使用範囲は、「バスは、市が主催し、若しくは共催する事業に参加する関係者を輸送する場合に使用することができる。」とのことだが、市が主催する事業と市が共催する事業のそれぞれの内容を問う。</p>	<p>市 長</p> <p>市 長</p>

氏 名	質 問 事 項	質 問 の 要 旨	質問の相手
		<p>(2) マイクロバス使用に係るガイドラインの事務の流れの中、「許可・不許可等について、申請及び予約等において利用が判明した場合に、速やかに利用の可否を申請者に伝える。」とのことだが、その判断基準を問う。</p>	
7. 堂森 忠夫	1. 公共施設等のメンテナンスについて	<p>公共施設には、多くの機器や構造物などがあるが、時間とともに劣化や老朽化し、将来は使用不能となる。しかし、定期的に維持管理、保全のための施工を実施すると、耐久性を向上させ長寿化に繋がる。よって、以下の施設等の現状や今後のメンテナンスの実施計画を問う。</p> <p>(1) 現在、市が管理している施設や建物ほどの位あり、その保全管理体制はどのような状態か。</p> <p>(2) 将来は、少子高齢化により各担当課の人員削減が予想される分野もあると思うが、少子化の対応策として、各担当課のメンテナンスを一元化し、施設等のメンテナンスを事業化する取組を図れないか。</p> <p>(3) 水田用の用水路が住宅地の開発により、現在は生活排水路に利用されている箇所が多くなったが、このような用水路を区別し、汚泥沈澱の多い箇所は環境保全のためのメンテナンスを定期的実施する推進を図れないか。</p> <p>(4) 学校施設内等には、スクールバス車庫用の構造物があるが、設置後一度も保全管理のメンテナンスが実施されていない施設が目立つが、今後の保全・管理計画を問う。</p>	市 長 教育長

氏 名	質 問 事 項	質 問 の 要 旨	質問の相手
	2. 島津義弘公没後 400年記念事業 について	<p>(1) 島津義弘公没後400年事業の取組のなかで、恒例的になった太鼓踊りが実施されたが、どこの地区も近年は踊り手が不足であると捉える。記念事業を節目に今後の保存活動の協力と理解を深めるために、保存会と協働し支援活動が可能な団体を募る活動を支援できないか問う。</p> <p>(2) 小規模校区では伝統文化の保存活動等によって、地域間の絆を深め地域の維持存続に努めているが、このような活動体験は教育的にも意義があると考え。島津義弘公の記念事業を機に、地域の伝統文化活動や自然体験を学ぶ活動を教育の一環として捉え、このような活動に取り組む特認校において、最低1年間は留学が可能な制度を創り、青少年教育の向上を図る教育推進に取り組めないか問う。</p>	市 長 教育長
8. 湯元 秀誠	1. 大型事業と将来 ビジョンについて	<p>(1) スマートインターチェンジと将来ビジョン構想について</p> <p>現在、市が進めている大型事業のネクスコ西日本の桜島サービスエリアを拠点としたスマートインターチェンジ建設事業も鹿児島市側への上り下り線のみで、完全な事業完成には至っていない現状である。</p> <p>①工事の完成時期はいつになるか。</p> <p>②スマートインターチェンジ設置事業の当初見込み予算と最終的総事業費はどうか。</p> <p>③この事業の当初の問題・課題の解消などの必然的理由や目的があったと考えるが具体的に問う。</p> <p>④スマートインターチェンジ設置事業には、市民をはじめ地権者の方々の</p>	市 長

氏 名	質 問 事 項	質 問 の 要 旨	質問の相手
		<p>理解と尊い犠牲、協力のもとに進められその期待も大きい。この事業から見る経済効果のねらいを問う。</p> <p>⑤スマートインターチェンジ近隣の凍結されている物産館建設予定地や、周辺の将来のビジョン構想も当然動きはじめていると察するが考えを問う。</p> <p>⑥現在、スマートインターチェンジは鹿児島市方面のみの利用であるが、完成後の安全性、利便性、活用性をどのように考え、何を本事業で目指すのか問う。</p> <p>⑦先月の大雨でさえ、イオン周辺では冠水により大変な渋滞が起きた。まして今後本庁舎建設の大型事業も加わり大変な事態が今後予想されることから、スマートインターチェンジの利用車を含め日常の生活交通ビジョン構想を立てるべきである。パーソントリップ調査など行い円滑な都市機能の確保に向けた取組が急がれる。考えを問う。</p> <p>(2) 奥之宇都線の新宇都トンネルと将来ビジョン構想について</p> <p>このトンネルは、昭和50年初めに掘られ、トンネルまでは農道で整備され、掘削は湧水などで難工事であったと聞いている。</p> <p>旧蒲生町議会で2車線化整備の提言を行った経緯がある。以後、鹿児島市と合議が重ねられ、本工事は鹿児島市主導で行い、蒲生町は負担金の拠出で進めることで合意がなされた。</p> <p>①合併により本事業は、鹿児島市と信頼関係のもと、協議も順調に引き継がれていたが、突然に工事を早める理由から2市の分割発注工事へ変更</p>	

氏名	質問事項	質問の要旨	質問の相手
		<p>された。改めて何故、分割工事に至ったのか。</p> <p>②担当者を含め、執行者も大型事業に関わらず、どこに目的、視点をおいているか疑う。発注者は、今までに本事業のねらいを市民にどう説明し、どのような理解を求めて来たか具体的な経緯を問う。</p> <p>③トンネル完成後の経済効果はどう見るか。</p> <p>④安全性の確保と通行量の増大が目的達成で終わるのか。今後のまちづくりの条件整備としてこの投資効果を活力につなぐ必要を感じる。トンネル周辺の下久徳地区には、手つかずの企業進出予定地、開発公社所有の空き地や老人施設跡地などが点在する。トンネル供用開始を契機にこの利便性の向上が図られたことを掲げ、所有者、民間企業を交え、土地利用を促進する将来ビジョン構想を立てるべきである。考えを伺う。</p>	